

南ドイツ・オーストリア・チェコの旅②

9月12日

今日は、世界遺産「シェーブルン宮殿と庭園」、「ウィーンの歴史地区」を巡る。忙しい一日だ。まずホテル近くのシェーブルン宮殿へ向かう。朝早くから多くの人で賑わっている。正門から入ると、マリア・テレジアン・イエローと呼ばれる黄色の重厚な建物が迫ってくる。



ここは、宮殿のほか隣接する建物や、広大な庭園、泉水、アーケード、様々な彫刻、世界最古の動物園、ガラス建築の植物園もあり、まさに総合芸術作品といったところである。

宮殿から庭園を眺めるとその規模に圧倒され、遠くにグロリエッテが望める。これは1757年マリア・テレジア軍が、プロイセンのフリードリヒ2世に勝利した戦勝記念碑である。



宮殿内には、豪華な装飾の「百万の間」、公式行事や謁見の場だった「鏡の間」、「大ギャラリー」などを見ることができた。まさしくハプスブルグ家の栄光を伝えるマリア・テレジアの宮殿である。



(百万の間)



(鏡の間)



(大ギャラリー)

宮殿内は撮影禁止のため、ガイドブックから引用させていただく。

シェーンブルン宮殿を後に、世界遺産「ウィーンの歴史地区」に入っていく。この街の建造物は大きく3種類に分類される。ひとつ目は、12世紀から15世紀に建てられた中世の修道院や教会など、ふたつ目は17世紀から18世紀に盛んにつくられたバロック様式の建造物、そして3つ目が19世紀の半ばのフランツ・ヨーゼフ1世による都市改造で作られた近代建築である。



都市改造によって旧市街の城壁の跡地にリンクシュトラッセと呼ばれる環状道路が造られ、その道路沿いに主要な建造物を建設された。したがって、トラム的一天券を買って回ると効率がいい。また地下鉄にも乗れるので便利だ。



まず中心部にあり街のシンボルにもなっている聖シュテファン大聖堂へと向かおう。12世紀に建設されたこの聖堂は当初はロマネスク様式だったが、その後主要部分がゴシック様式に改修されている。中に入ると高い天井にステンドグラスが外部の光を取り入れて荘厳な雰囲気を醸し出していた。

そのあと王宮や市庁舎をゆっくり散策しながら街の雰囲気を楽しんだ。コールマルクト通りには高級ブランド店も多く、多くの観光客や市民で賑わっていた。かつては、皇帝の宮廷に品物を納めていた帝室御用達の高級専門店が並んでいたが、今では、カルティエ、ティファニーなど国際的な最高級ブランドの専門店がオープンしているとのことだ。途中カフェでアインシュペナーをいただく。



9月13日

今日は、中世の佇まいを残した、世界遺産「チェスキー・クルムロフ」を訪れる。世界で最も美しいと街のひとつと言われているので、どんな光景が待っているのか楽しみだ。

チェスキー・クルムロフに着くと、そこは小さな街だった。クルムロフは「川の湾曲部の湿地帯」を意味し、ドイツ語の Krumme Aue が語源で、チェスキーは、チェコ語で「ボヘミアの」という意味らしい。確かにヴルタヴァ川にぐるっと囲まれている。街で買ったわかりやすい立体地図が参考になった。すぐ目の前には、大きなチェスキー・クルムロフ城があり、さっそく登ってみる。

城内を見学した後、街全体が眺められる絶景ポイントがあった。多くの観光客が記念写真を撮っている。

さすがに噂通り美しい街並みだった。屋根の色彩も統一されており、聖ヴィート教会以外は目立った高い建物はない。背後の緑、川の曲線が街並みに調和して心地いい。しばらくは、この風景を眺めていよう。

